



この号の内容

1 春学期中に、対面による授業を予定されている先生方へ

2 転載 障がい学生支援室より「障がい学生からみるオンライン授業における課題」

3 大学生協の書籍通信販売が大幅に改善

【本ニュース発行主体】

HOSEI2020 オンライン授業支援特設チーム

(教学統括副学長のもとに2020年度のオンライン授業を支援する目的で設置)

【事務局】

総長室付教学企画室

春学期中に対面による授業を予定されている先生方へ

対面授業を開始される2週間前までには 学習支援システムの「お知らせ」で受講生に通知ください

この間、各学部・研究科で6月22日以降に対面による授業を再開・実施する予定の科目を選定されてきたかと思います。

これまで学生に対して、対面授業の再開については、大学HPにて「具体的な科目、日程の予定については、対面型の授業開始日 2週間前までに、各学部・研究科より「法政ポータルサイト(Hoppii)」でお知らせします。」と伝えていきます。

<https://www.hosei.ac.jp/info/article-20200529112649/>

したがって、各先生におかれましても、対面授業を開始される「2週間前まで」には、学習支援システムの「お知らせ」欄を用いて、必ず受講生に通知くださいますよう、お願いいたします。(なお、まだ「お知らせ」には掲示していなかったが、既に受講生には伝えていたという場合は、上記の限りでありませんが、あらためて「お知らせ」にも記載ください。) 授業の教室については、感染防止対策を講じるため、当初予定と異なる場合が多くなります。大学から各先生にご連絡差し上げますが、現時点でまだご存じでなく、急いで学生に知らせる必要がある場合は、各学部・研究科事務にご確認ください。

対面授業の再開・実施にあたっては、同じくHPに掲載した以下の点もご確認ください。

対面型の授業を一部実施する際には、キャンパス内の感染症対策の他、以下の対応を講じます。<https://www.hosei.ac.jp/info/article-20200529112649/>

- ① 対面型の授業をオンラインで配信するなど、学外からの授業参加も可能な方法の提供。(補足: 通学が心配で対面授業には参加したくないという学生も出てくると思いますので、そうした学生へのご配慮をお願いいたします。また、対面型授業をオンライン配信されるなどの場合には、授業運営のサポートとして「新型コロナウイルス感染症禍に係る学生支援策としての学生アシスタント制度」も積極的にご活用ください。)
- ② 各キャンパスの空き教室を開放し、登校した学生が、「三密」を避けて、キャンパス内でオンライン授業にも参加できる環境整備。(補足: 各キャンパスにおけるオンライン授業受講のために使用できる教室については、6月12日中に「法政ポータルサイト(Hoppii)」に公開される予定です)

※登校を希望しない学生に対する代替的な受講の機会については、科目の提示後、各学部にお問い合わせください。(補足: 学生から今後問い合わせが入る可能性がありますので、ご検討をお願いいたします。)

障がい学生からみるオンライン授業における課題

本学の「障がい学生支援室」が、「障がい学生からみるオンライン授業における課題」という文書をまとめましたので、この場でも紹介させていただきます。たいていの科目において、何らかの障がいをもつ受講生がいると考えられます。障がいをもつ学生への配慮は、それ以外の学生にとっても学びやすい環境をつくることになる場合がありますので、ぜひご一読ください。

障がい学生からみるオンライン授業における課題

障がい学生支援室

コロナ禍において、新たな授業形態として今年度から実施しているオンライン授業であるが、障がい学生にとっては、通学せずに済むというメリットがある一方で、通常の対面授業とは異なる困りごとが新たに発生している。彼らの支援を行っていく中で、障がい学生に共通の困りごと（課題）が明確になってきたので、障がいごとに以下にまとめた。障がい学生を担当する教員の皆さまと共有していけたらと考えるが、今後オンライン授業の環境整備を行っていくうえで、これらの課題を解決していくことは、障がい学生だけでなく、一般学生にとってもよりよいオンライン授業環境の提供につながると思われる。

発達障がい

【困りごと】

①授業の予定日時や内容が事前に把握できず準備ができない

先の予定や見通しが立たないことに不安を感じやすく、急な予定の変更、予期していたことと現実が異なった場合の対応が難しい傾向があるため、Hoppii での周知が遅れたり、直前に授業形態や内容が変わると、不安な気持ちで授業に臨まざるを得ない学生も多い。

②オンライン画面からの情報把握やあいまいな指示の理解に困難を感じる

注意集中がしにくいという特性から、聞くこと、見ることに困難さがある場合、リアルタイムで行うオンライン授業においては、対面授業よりも、指示や説明の聞き逃し、重要なポイントの見逃し等が生じやすい。教員が早口だったり、「ここに」などの指示語のみの説明だと、どこに注目すべきかわからなくなることがある。聞き逃しや、見逃し等が起こった場合、その場で先生に質問し、確認できないと、授業についていけなくなることもある。また、空気を讀んだり場の雰囲気を読んだりすることが苦手な学生には、空気を讀んでの自己判断が難しく教員の指示等を正しく読み取ることができないことも多い。

③必要な情報の発見・整理に時間がかかる

学習支援システム上で必要な授業ファイルを探すのに時間がかかる、または見つけることができない学生も多い。もともと、自分の予測と目にみえる状況が異なっていると、不安になりやすい傾向があるため、たくさんの情報の中から、自分に必要な情報を見つけることに困難さをもつ。

また、オンライン授業と一口に言ってもその形態は教員や科目によってさまざまに異なる。どの授業がどの形態で、どのシステムやアプリを使用するのか、どの科目の課題がどこに掲載されているのか、など情報整理を苦手とする学生にとっては、すべてを把握し対応することに困難が生じている。

→次ページへ

④オンラインシステムやアプリの使用に困難を感じる

オンライン学習システム（Google classroom、Mahara）や双方向型オンラインシステム（Zoom や Webex）、LINE を使った授業配信などを使用する場合、新しいことに対応することの苦手さから、使用方法を理解するのに時間がかかることが多く、きちんと授業を受けられるかという不安を抱える学生も多い。先生に相談したいが連絡の取り方がわからない、相談の仕方がわからない等の相談窓口へのアクセスの難しさもまた、不安感を増大させている。

⑤PC 作業の苦手さに伴い、課題の取り組みや提出に遅れが生じる

処理速度の遅さ、同時に複数の課題を処理していくことの困難さを抱える場合、授業の課題やリアクションペーパーの作成に人より時間がかかることが多い。また、まじめで几帳面な性格もあり、順番に着実に課題を行っていくのを得意とするため、締切を守れない、あるいは遅れることによる成績評価に強い不安を抱える場合もある。

【対応策】

①スケジュールや授業内容を事前に周知する

急な予定変更や想定外のことを行うのが苦手な学生のために、可能な限り前もって授業のスケジュールや内容を明確にし、学生に周知することで、学生は前もって授業の準備ができ、安心して授業に臨むことができる。

②授業内での明確な説明と理解を助けるフォロー体制をとる

授業中、分からないことがあるときには、対面授業時と同様に、その場で質疑応答ができる環境を用意する。また、ゆっくりと説明する、指示語のような曖昧な表現はできるだけ避けて、何を指しているのか、何をしてほしいのかを学生に明確に伝わるように説明する、といった対応を行っていただくことでより理解が進む場合もある。タイミングを見計らったり積極的に質問することが苦手な学生もいるので、できれば、質問をする場合のルールやタイミングについて、事前の指示があると学生も安心して授業に臨むことができる。

③情報を整理したうえでわかりやすい提示方法と周知を行う

受け手側にわかりやすい資料の提示方法、周知方法に努める。一定のルールの下に情報を整理し提示することで迷わずにアクセスできるようなシステムを作ることで、学生側の負担は減るとされる。また、課題を出す際にも、推測して対応することが困難な学生が混乱することのないように、課題範囲や指示方法をわかりやすく明確に伝えることを心掛ける。

④新しいシステム利用時における視覚的な情報提供を心掛ける

新しいシステムやアプリを使用する際には、視覚的にわかりやすい使用方法を提示すると理解が早まるので、文章や口頭だけでなく、視覚的な資料を用意する。

精神障がい

【困りごと】

①オンライン授業といえども欠席してしまうこともある

定期的な通院日には、オンライン授業であっても、欠席せざるを得ない。あるいは、通院や薬の副作用等により、朝起きられないなどの症状がある場合には、オンライン授業であっても午前中の授業には出席できない可能性がある。 →次ページへ

②オンライン授業におけるカメラ使用に抵抗を感じる

うつ病や対人コミュニケーションに強い不安を抱える学生は自分の顔をオンライン上に公開することに抵抗のある学生がおり、授業には出席できるが、カメラを OFF にしたいという要望を持つ学生もいる。

【対応策】

①欠席に対する配慮

オンライン授業といえども、通院や薬の副作用で出席できないこともあるため、事情を理解いただき、欠席の際に配慮いただきたい。

②カメラをオフにしてのオンライン授業参加の許可

カメラでの映像の存在が授業内容に大きな影響を与えない場合には、カメラを OFF にしての受講を許可する。

聴覚障がい

【困りごと】

①オンライン授業では正確な情報把握がしづらい

インターネット経由では音声クリアでないことから補聴器だけでは正確に情報を把握することが難しい場合がある。中には、補聴器を通して PC などから出る音が全く聞こえないという学生もいるため、対面授業と同様に映像だけでは講義内容を把握することが難しい。

【対応策】

①映像に加えて文字やデータによる授業資料を提供する

映像だけでなく、文字など視覚的に理解できる資料があると授業内容の理解を深めることができる。動画を使用する場合には、キャプションや字幕などがあることで理解の助けになることもある。オンライン授業における講義保障として、障がい学生支援室では、学生サポートスタッフによる映像の文字起こしを行い、情報の補完に対応しているが、唇の動きを読むことができる学生については、担当教員が顔を出して唇を読みやすいよう配慮いただくことでも情報の補完となる。その場合、顔に影がかからないようなアングルにするなどの工夫も大事である。なお、文字起こしには一定の時間がかかるため、課題の提出等がある場合には、締切期限を延長するなどの配慮が必要となる。

その他

①新入生の中には、履修登録システムがうまく使いこなせず、きちんと登録が完了できたか不安を抱える学生も多かった。

②肢体不自由学生については、オンライン授業といえども通院による欠席が必要な学生もいたが、通学の困難がなくなったことにより、特段の配慮なしに授業に参加することができている。

→次ページへ

考察・まとめ

- * オンライン授業という、これまでの対面授業からの大きな変化に伴い、授業を受けるための環境整備（PC、インターネット容量）、学習システムの使用方法、必要なアプリのインストールなど授業にアクセスすることに困難さを抱えやすいのは、発達障害のある学生に多くみられる傾向である。
 - * オンライン授業、特にリアルタイム授業の場合、通常授業に比べて、視覚情報や音声情報が混乱しやすいため、映像に長時間注意を向けることが苦手である、あるいは、聞き取りに困難さのある障がい学生は、授業についていけなくなる可能性が示唆された。
 - * オンライン授業の予定日時の明示、授業ファイルや課題ファイルのアクセスの仕方や場所のわかりやすさ、課題の提出期限等の重要な情報へのアクセスの仕方がわかりやすいこと等が障がい学生だけでなく、すべての学生にとって有用であると思われる。
 - * 授業についていけない、わからないことを先生に聞くことができない学生について、その状況を把握し、先生と学生とをつなぐ相談窓口として支援室が機能することが、オンライン授業ではより重要になると考える。
- 以上

法政大学生協の書籍インターネットサービスが大幅に改善されました

従来、法政大学生協の書籍販売は、組合員が店舗受取する場合は、組合員価格として 5%引きでしたが、このたび、店舗受取に加えて、宅配サービスでも組合員価格として 5%引きになることが決まりました。また、購入価格 5000 円以上の場合は、宅配料が無料になるそうです。(5000 円未満は送料 400 円) 今学期の教科書手配はすでに完了されていると思いますが、情報共有としてお伝えさせていただきます。詳しくは、以下をご覧ください。

https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_116.html#%E6%9B%B8%E7%B1%8D